

安心して、ゆとりを持って「産み、育てる」ことのできるまちを目指して いわき版ネウボラ

現状・課題

○少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化により、地域で妊産婦やその家族を支える力が低下し、妊娠・出産・子育てに関する不安や負担が増加

加えて、本市では

- 妊娠期～産前・産後の支援が手薄
- 今後、ネウボラの予防支援、個別支援を実施するにあたり、現在の保健師数では円滑な事務の執行に課題

目標

妊婦

- 出産、子育ての不安や悩みを解消し、孤立を防止
- 安定した心身状態で出産、子育てできる環境の整備

子ども

- 子どもの人権を守りながら、健やかな成長を支援

H29.4～

いわき版ネウボラの創設

- ◇ 地区保健福祉センターをワンストップ拠点（ネウボラ）として
- ◇ 妊娠、出産から子育て期までの支援について
- ◇ 母子だけでなく、父親、家族も含めて
- ◇ 専門職（保健師）によるアセスメントを基礎とし
- ◇ 地域の社会資源の開発・育成を念頭に、それらの社会資源と連動させ
- ◇ これまで以上に継続的かつ包括的に関わっていく仕組み

いわき版ネウボラの特徴

妊娠前

妊娠期

産前・産後

子育て期

中地域単位でワンストップ拠点を設置（地区保健福祉センターに「子育て世代包括支援センター」機能の付与）

- ・ 7 地区保健福祉センターをワンストップ支援拠点とし、専門職を配置
- ・ 母子保健と子育て支援の密接な連携体制の強化
- ・ 相談窓口と訪問活動との一体性を確保

すべての家庭のニーズの把握（妊婦全員へのアセスメント）

- ・ 行政保健師によるアセスメントの強化

ハイリスクアプローチの強化（虐待防止、養育困難家庭支援）

- ・ 産婦人科等医療機関や子育て支援機関との連携による早期支援
- ・ 夫や家族等へのアプローチの強化
- ・ 発達支援システムとの一体的な取組の実施

産前・産後のサポート体制の強化

- （産前・産後サポート事業）
- ・ 助産師等専門職のほか、より身近な子育て経験者等による相談支援の実施（産前・産後ケア事業）
- ・ 妊産婦が、助産師等から必要な助言指導が受けられ、心身ともにリラックスできるように、産前・産後の支援を強化
- ・ 市内に1カ所、産前・産後ケア拠点の整備を検討

地域子育て支援拠点（ランチ）の設置

- ・ 保育所、幼稚園、児童館・こども元気センター、公民館をランチとして位置付け
- ・ 相談機能、子どもの遊び場を中心とした交流機能、情報提供機能の整備

切れ目のない子育て支援に向けた連携体制の確立（「いわき版ネウボラ」見える化プロジェクト）

- ・ 地域の関係者、NPO、医療機関、子育て支援団体など、関係機関と行政が一体となって検討し、妊娠～出産～子育て支援につなげる
- （市全体）いわき版ネウボラ推進連携協議会の設置
- （各地域）地域連携協議会の設置

ライフステージ別支援メニュー

（赤字は新規、拡充）

ワンストップ拠点での専門職（母子保健コーディネーター、子育てコンシェルジュ）による相談・支援

- 親子健康手帳の交付（全員、専門職によるアセスメントを実施）
- 子育て支援プランの交付（全員）



つなぐ

特定不妊治療助成

妊婦健診

乳幼児健診

プレママ・プレパパクラス
（市内1カ所 ⇒ 各地域で実施）

産前・産後ケア
（拠点の整備）

※いわきっ子健やか訪問（乳児家庭全戸訪問）

産前・産後サポート（妊産婦訪問指導、家事支援等）

※ 乳幼児訪問指導

保育所 幼稚園 認定こども園

放課後児童クラブ

地域子育て支援拠点（保育所、幼稚園、児童館・こども元気センター、公民館）